

ワークショップ

アジア共通プロ向け債券市場創設にかかわる諸側面

鈴木裕彦（パークレイズ証券株式会社）

アジアのプロ向け債券市場創設の実現に向けてアセアン+3の枠組みで行われているABMF（アセアン+3・ボンドマーケット・フォーラム）においてASEAN+3域内の共通プロ向け債券市場構想であるASEAN+3 Multi-Currency Bond Issuance Framework（AMBIF）創設に向けた活動が大きく進展している。

現在、早大教授犬飼氏がコンサルタントを勤め、日本取引所グループ国際担当企画役 茅沼氏が議長を勤められているABMF（Asian Bond Market Forum）Sub-Forum 1において、弊社はInternational Expert 委員として、国際的な債券引受の経験および2009年6月に東京AIM（現東証の東京プロボンドマーケット（TPBM）部門）に対して日本における特定投資家向け東京プロボンド市場の創設の直接提案を行って以来のその創設にかかる関係各方面との協働作業に実務的に貢献してきた経験に基づき、積極的にその議論に加わり、有意なアドバイスをを行うべく尽力している。

今回のワークショップにおいては、目指すべきAMBIF Marketについての今後の展望と日本とアジアの金融証券業者にとっての意義・メリット・課題、またASEAN+3域内の共通プロ向け債券市場の中核となる東京プロボンドマーケットと域内の各プロ市場をつないでいく際の具体的な要件を検討し、東京プロボンドマーケットの創設時の狙いと現状比較を通して域内共通債券市場創設にむけた課題等を考察する。

なお、AMBIFのメリットは、（Ⅰ）発行体および発行者グループにとっては、（1）共通でわかりやすく簡素で簡潔なドキュメンテーションとプロ投資家向け限定開示要件によって、域内の各現地通貨による新しい柔軟な直接調達手段による資金調達方法が可能となること、（2）複数のASEAN+3各国でのプロ向け債券市場での発行において、当局規定の発行手続きが迅速化されることで、タイミングを逸しない迅速な市場へのアクセスが可能となること、（3）より広い域内外のプロ投資家の参加とより多くのマーケットメーカーの参入が可能となることで市場がより大きなものとなり、公正な価格形成が促進されることが期待されること、（4）より低い発行費用での発行が期待できることである。さらに、（Ⅱ）域内外のプロ投資家にとっては、AMBIFは、（5）これまでの外債市場では起債実績の乏しいASEAN+3 ローカル発行体銘柄による、従来とは異なるアセットクラスのLCY建て債券投資のための重要な投資機会を創出することが期待される。（Ⅲ）全体として、これらAMBIF市場の実現は、（6）域内共通プロ向け債券市場を通じて、各国国内プロ市場および域内共通のプロ向け債券市場の深みと流動性を増進させると考えられる。